

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	KID ACADEMY CHALLENGE葛城校				公表日	2025年 1月 6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	1	動きがあるお子様、座って過ごすことが多いお子様がいらっしゃるため、同じ空間の中で安全を考慮して活動ができるように職員間で話をしながら決めている。	転倒防止の為にマット等工夫していたり、好きな遊びを選択しやすくしているが、車イスの置場所と子ども達が歩く場所等が近くにあったり、静養室をもっと確保出来るようにしたいと考えている。療育で使用する道具の整理整頓ができる、活動の場所も広くなると思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2	送迎添乗に必要なとされる人数、個別でのお子様対応をさせていただくのに十分な人数の確保が安定してできるように本社と調整している。	職員が不足している日については、事前にシフト調整をしておりますので支障なく運営できています。引き続き安定した職員確保に努めていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	0	車イスが入りやすいスロープの作成等行ったり、見えやすく選択しやすい位置に配置している。玄関に段差があったが、スロープを作っていたら車椅子でも負担なく登れるようになった。毎月、壁面を季節を感じれるように変えている。変化に気づく子もいたり、じーっとみたりする子もいる。	パニックになった際に、落ち着ける場所の確保は、その都度行っている状態のため、職員同士で共通認識しておくようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	2	毎日の清掃で清潔を保つことができている。	空間的には1カ所に全て配置している状態の為、もう少し区分け出来るとうわりやすくて良いと思う。入れ物が壊れたりしているものがあるため、改めて点検し修繕、交換を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	2	支援室のスペースは充分確保されているため、必要に応じて個で過ごすことができるスペースを確保できるようにしている。空間を仕切れるものもあるため、個別の場所を作ることはできる。	お昼寝の場所があるが物があつたりするため、いざというときにすぐに使用できるように日常的に整えておくように改善する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	0	年間目標を決め、中間と期末に聞き取りを事業所として行っている。毎月、全体会議、療育会議、看護師会議を設定している。全員の目標や会社、事業所の目標を張り出している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	ライン等で、いつでも連絡しやすいようにしており、何かあれば直ぐにご連絡下さっている。職員間の共有ノートでその都度の共有もできている。	保護者様同士の意見交換や講演会等をもっと積極的に行っていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	基本的に会議の場で発言しており、そこで話せなかった共有部分に関しては、共有ノートを用いて伝達するようにしている。毎月、全体会議、療育会議、看護師会議を設定している。共有ノートは全職員が記入できて、出勤毎に確認しているので活用できていると思う。	共有ノートで全職員に概ね伝達出来ているが、管理者・児発管が書くことが多いため、他の職員からの気づきや連絡事項も記載してもらえるように改善していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	3		現在のところ、第三者の外部評価を受けていないが今後受けることができるように進めていきたいと考えている。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	医療的ケア児に対する支援者研修等の参加や重心施設が集まる連絡会等の参加、重心センターからの研修への参加を積極的に行っている。研修があることを上司から案内を教えてもらい受講している。		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0	統一した療育・支援を行うため、葛城校としての支援プログラムを作成し公表している。 それを元に、各児童の支援プログラムは職員会議で話し合い、個別支援計画書に盛り込んでいる。 社会性の発達については、集団での療育の時間を設けプログラムを立案して行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0	感覚統合を用いた療育を中心におこなっている。 また、食事面・排泄面に関しては、保護者様のニーズに沿った支援を行っている 会議の際に意見を出し合える。面談での聞き取りや関わりで個々にアセスメントできている感じる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	会議で療育検討を行っている。 意見を出し合い、その子にあった計画を考えている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	作成後は、伝言板ノートを用いて共有し、個々で確認できるようにしている 日誌に目標が設定されているため確認しやすい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	2	日誌を記入し、担当以外も確認するようにチェック欄がある。確認することで、その日の行動や活動がイメージできる。	日頃の行動観察が主となっている。また、SVによる児童の観察から見えてくる姿からの助言をもとに支援内容や支援環境を整えている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	個々にあった支援内容を考えている 家庭状況や、他に利用されているサービス、事業所の把握をしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	基本的には日々のリーダーを決め、当日の療育プログラムを考えている いつも同じプログラムになったり、得意なものだけになりがちになるため、スタッフのスキルアップが必要 日々の活動は担当が決められているが、目標はチームで共有できている。そのため、共通の活動に取り組んでいる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1	日誌を振り返り、同じ活動でも内容を変えてみたり、ちがう活動を試してみたりと工夫しながら考えている。	工夫がまだ足りないと感じるため、
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	0	どちらも考えてプログラムを作成している 放課後で15:30到着の場合は集団活動に取り組めないが、それ以外は集団活動もできている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	パートさんは出勤時間が異なるため、打ち合わせは必ずできていないが、伝達ノートを活用したり、ボードに担当や活動内容が一目でわかるように工夫されている。	簡単な話しはするが、出勤時間が異なる為、全員で確認する時間が取れないが必要と感じている
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	3		送迎や退勤時間が異なり共有の場が少ないため、できていない。伝えたいことを記録に残し、全員に伝える方法を考えていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0	個別記録の実施は必ずしている 日誌があり、看護記録もある。 その日の活動前に日誌を確認して、活動内容を決めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	会議で毎月検討している 半年ごとに面談を行い、原案に沿って職員で会議している。	

	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	3	0	考えているが、意識しきれていないところもあると感じる 4つの基本活動に沿った活動内容を個別にあるため、支援できていると思う。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	0	カード選択、言葉がけ等個々にあったやり方で選択出来るように心がけている それを共有出来ていない時もあるため、全員で共有することを徹底する必要があると感じている その子にあった、選択方法で選択肢の数を決めて支援している。自己決定を育てるための支援方法をもっと知りたい。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	基本的には管理者や児発管が参加・説明しているが、今後は職員の出席も検討したい	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	0	3		相談支援事業所と学校は、タイミングをみて情報交換する機会があるが、なかなか横の繋がりをしっかり確率出来ていないため、今後は利用児が関わる機関と密に連携していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	0	直接お聞きしたり、保護者様から情報を得たりしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	3		就学前の情報は保護者様からの情報提供のみになっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	3		そのような利用児がまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	0	重心センターからの研修等へ参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	3		事業所のイベントに地域の方にも参加してもらったり、近くの放課後児童クラブがあるかの確認が必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	参加の声がかかった場合は、可能な限り参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	送迎時やその他ご連絡をしたり、個別の様子を写真を送る等している 送迎時には本日のお話をしている。PTやOTでどんなことをしているのか共有していただき、保護者様の希望があれば取り組んでいきたい。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	イベントにはご家族で参加してもらい、保護者様同士でのお話会も設けている。	できていないと思う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	契約時にお伝えし、必要に応じて対応している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	ご利用される前に必ず確認している 面談では利用児、ご家族のご意見を大切に聞き取りしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	0	半年に一回のペースで聞き取りを行い、本人・保護者様のニーズの把握からお子様の課題、今後の目標の確認や変更箇所等考慮して計画書を作成している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0	必要に応じてお聞きしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	0	イベント等を行い、保護者交流の場を設けているが、保護者のみの交流の場の提供は出来ないため、今後はそういった場を提供していきたい。イベントにはご家族で参加してもらったり、保護者様同士でのお話を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	スタッフから状況を聞き取り、保護者様へご連絡し、経緯をお伝えしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	2	1	内部配信もイベント時に日々の様子をお伝えしているが、まだまだ足りないと感じている。	ご利用のご家庭への情報発信をより円滑に、スピーディーに行っていくためにHPやSNSの活用は進めていく必要があると感じている。外部配信が出来ていないため、本社と連携をしながら、どのような療育を行っている事業所かを広く知っていただくための広報活動をしていきたいと考えている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	個人情報保護に関する職員研修の受講、安全管理の観点から定期的に鍵付き書庫での保管が適切に行われているかどうかをチェック体制をとっている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	わかりやすい言葉がけ等工夫していることもさんごの理解するために、疾患や障害を知ることをまず大切にしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	3		今後の課題であるので必要に応じて検討していく。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	年間計画に基づき行っている訓練内容を議事録に残して、参加できないスタッフにも共有、会議でも共有している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	0	年間計画に基づき行っている1回の避難訓練で改善したほうがよいところをその場で考えて、2回目、3回目と重ねて訓練をした。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	0	契約時に確認し、日々更新している。疾患のファイルを作成している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	3		提供する食事・おやつについては、各家庭から持参していただくものを基本としているため医師の指示書はいただいていない。行事等でこちらから提供するものに関しては、配慮が必要かどうかの確認をその都度、保護者に取るようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	年間計画に基づき行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	発作や発熱があったときの対応方法を確認している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	ヒヤリハットを意識的に記録に残すようにし、その内容から対策を講じることや職員間での共有を行うことで事故防止につなげている。会議で検討する時間を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	法令で定められた回数その他、必要に応じて職員への啓発活動、研修の時間を設けるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	0	会社内での研修受講の他、職員会議において想定される事例を考えるようにしている。また、実際に身体拘束を行う際にはどのような手順を踏むのかについて職員が適切に理解できているかどうかの確認を行っている。		